

論文

冒頭音反復についての一考察 — 応答表現を中心に —

森山卓郎・姚瑤

要旨：

日本語における冒頭音反復のニュアンスを応答詞に焦点を当てて文脈と音声の両方から分析した。冒頭音反復という形式的側面を確認した後、コーパスによる作品内文脈の分析を行った結果、そこからためらい、驚き、焦り、はりきりなどの感情が含意されることが示唆された。これは発音における非落ち着き性としてまとめられる。「は、はい」をケーススタディとして、「は」と「はい」の間の無音区間の長さや解釈の相関、「はい」の部分が下降する発音とそうでない発音と解釈の相関をめぐる聴取実験を行った。その結果、「は」と「はい」の間の無音区間がより短い発音、「はい」の部分が下降する発音において、肯定的ニュアンスにつながる事が分かった。

キーワード：冒頭音反復、非落ち着き性、ためらい、驚き、無音区間、下降

Abstract：

We analyzed the nuance of the repetition of the first mora (RFM) in Japanese. A context analysis of The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese suggests that RFM implies the discomposure of the pronunciation, namely, hesitation, surprise, impatience or enthusiasm. Experiments of “Ha, Hai (Y, yes)” as a case study of RFM suggest that RFM implies the less affirmative nuance when the silent interval before

repetition is long and the pitch of “Hai (Yes)” does not make a strong fall.

Keywords : the repetition of the first mora, discomposure, hesitation, surprise, silent interval, the fall of pitch